

## 1人1台タブレット端末を活用して

## 「セーフティ&amp;コンビニエント」システムを製作する学習

第6学年

校区の魅力度 UP「セーフティ&amp;コンビニエント」

こんな子どもたちの姿が生まれました!

■校区の魅力度 UPに向けて自分の思いや願いをもち、より安全で便利なシステムにするために、意図した処理をどう改善すればよいのか、試行錯誤する姿が見られました。

## タブレット端末の活用による効果



通学路の横断歩道は、車が多くて危ないので、音を鳴らして注意喚起したいな。



地図の二次元バーコードを読み込み、システムを置きたい場所の状況を把握する。

校区の地図の二次元バーコードを読み込み、実際にその場所の状況や危険な点をリアルに把握し、その場所に合ったシステムを考えることができるようにする。



この場所では、どんなメッセージを出すと、安全に気を付けようという気持ちになるかな。どんな音を鳴らすと効果的かな。

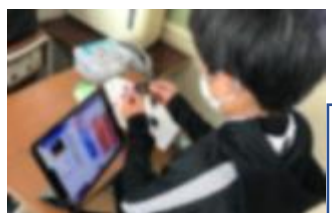
課題解決に向かって、「安全・便利」を視点に試行錯誤する。

「安全・便利」を共通の視点として、必要な情報を取り入れながら、動作の順序や文字と音の組合せをどのように改善すればより効果的なシステムになるか、試行錯誤することができるようにする。

## 教師の指導のポイント

- 地図の二次元バーコードを提示し、システムを置く場所の状況をいつでも確認できるようにする。
- 試行錯誤する共通の視点を明確にする。

## 大型提示装置の活用による効果



文字を点滅させたり、文字と音を組み合わせたりするシステムに改善することで、注意をひくことができより安全・便利だね!

大型提示装置で仲間のシステムを共有することで、新たな気づきを獲得し、自分の考えを再構築する。

全体交流において、画面転送装置・実物投影機を使って、仲間のシステムを共有し、より安全・便利なシステムにするための新たな気づきを得ることができるようにする。

## 教師の指導のポイント

- 瞬時に仲間の考えたシステムや実際の動きを共有することができるように、児童がタブレット画面を大画面に投影できるように事前に指導しておく。
- 本時、考えたシステムが横断歩道の待ち時間表示や誘導音などに活用されていることを動画で示し、児童の身近な生活の事象と関連付けることができるようにする。